

令和元年6月4日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03245

研究課題名(和文)上海市経済特区における中国プロテスタントの宗教生活の変化に関する研究

研究課題名(英文) The Changes of Chinese Protestants' Religious Activities in the Spacial Economic Zone of Shanghai.

研究代表者

村上 志保 (Murakami, Shiho)

立命館大学・言語教育センター・嘱託講師

研究者番号：90526790

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は上海の経済特区である浦東新区において、外国人キリスト教徒の増加をはじめとしたグローバル化が中国プロテスタント教会に及ぼす影響を調査する計画であったが、習近平政権下におけるキリスト教会への締め付けの強化により、調査対象の安全を考慮し、調査対象を上海および北京における、主に中国在住の外国人キリスト教信者が活動する国際教会の状況に絞った。調査対象の変更はあったが、調査の結果、中国都市部において進むグローバル化・国際化の状況と、政府の対応に関して注目すべき重要な状況が明らかになり、国際化する中国と宗教をめぐる今後の研究につながる成果を出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、中国都市部における国際教会の実態およびその発展の状況と、地方政府の国際教会に対する対応について詳細な調査を行い、現在中国において生じている宗教をめぐる移動やネットワークの国を越えた拡大をめぐる、宗教側と政府の間のせめぎ合いの状況を明らかにした。中国政府は長年宗教の越境性を封じることで宗教をコントロールしてきたが、今や国際社会をリードする大国として急成長したことにより宗教の急速なグローバル化に直面している。本研究の意義は、中国において現在進行中である宗教をめぐる大きな転換点を、具体的な事例を通して考察した点にある。

研究成果の概要(英文)：I originally planned for this study to conduct a research on the influence of global factors on local churches in Pudong New Area, a special economic zone in Shanghai. However, I changed some part of the original plan due to the tightened religious control especially over Christians and Muslims by the government under the Xi Jinping administration. In order to guarantee the safety of the local believers and churches, I made minor alterations to the plan and mainly focus on international Christian fellowships organized by foreign protestants living in Shanghai and Beijing. Despite of this change, I could obtain much data in the form of interviews and documents concerning the globalization surrounding religions in China and the government's control to restrict the overseas influences to domestic religious affairs. Consequently, I could clarify some important points concerning globalizing religions situations in China, and which would contribute to the studies in the future.

研究分野：社会人類学

キーワード：中国プロテスタント 中国の宗教政策 グローバル化と宗教 国際教会 都市 上海 北京

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) **中華人民共和国における宗教をめぐる動向**：中国において宗教は共産党政権による厳密な管理体制下にあるが、1980年代以降、様々な要因により宗教の規模や社会への影響力が拡大し続けてきた。特にプロテスタントは信者数が急速に増加すると共に、近年では知識人や企業家の間でも信者が増加し、社会に対して一定の影響力を備えるようになってきている。そのような状況の中、習近平現政権(2012年～)は宗教に対して強硬路線を採り、特にキリスト教およびイスラムに対して管理を強めている。さらに2015年より「宗教の中国化」を正式に宗教政策の軸に位置づけ様々なキャンペーンを展開しているが、この「中国化」は特にキリスト教や、イスラムのような海外の宗教団体とのコンタクトや外来文化との関係性を強く持つ宗教に対して規制的な機能を果たしている。

(2) **中国キリスト教をめぐる研究動向**：上記の状況を反映し、現代中国におけるキリスト教の状況をめぐる学術的議論は主に政教関係に集中し、その多くが国家と宗教という二つのアクターの相互作用(主に敵対/適応)として見る枠組みに基づいて議論を展開してきた。しかしながら、1990年代以降の中国の急速な変化は、政教関係を中心とするアプローチの限界をますます顕著にしてきた。そのため、宗教活動に影響を及ぼしうるファクターは政治以外に経済発展、都市化、生活スタイルの変化、グローバル化など多様化してきた為、それらを含み込んだ分析と議論の必要性がさらに高まっている。

(3) **本研究の位置づけと意図**：本研究では、近年における中国の急速な社会変化のなかで、特にグローバル化が中国キリスト教に及ぼす影響に注目している。中国は今や世界第二位の経済大国となり、国際社会におけるプレゼンスも高めつつあるが、その結果として、宗教を含めた中国社会全体において対外的な交流や国際化が急速に進んでいる。その急速な変化が、国内における宗教環境に少なからぬ影響を与えうることは十分に予想されることであり、中国キリスト教をめぐる学術研究においても、グローバル化の影響の拡大はますます頻りに指摘されるようになってきている。しかしながら、具体的な実態に基づく実証研究は現在のところほとんど進められていない。本研究ではこのような既存の研究における欠如を埋めるべく、1992年に経済特区が設置され、中国で最も先進的な経済優遇政策が実行される中で開発や国際化が進んできた上海浦東新区におけるプロテスタント教会を主たる対象に選び調査を開始した。

2. 研究の目的

(1) **本研究の目的**：本研究の目的は、中国国内においてグローバル化の影響を大きく受ける地域での具体的な事例に基づく実証研究を通して、キリスト教を取り巻く環境をめぐるグローバル化の影響の状況を明らかにすること、さらに宗教と国家がそれぞれが設定してゆく国内と国外をめぐる境界の線引きをめぐる理論構築を行うことである。中国は現在、経済面では一帯一路構想に代表されるように、中国を中心とした新たなグローバル経済圏の構築を進めている。その結果、国境を越えた人や物、そして情報の移動が活発化し、宗教を含めた中国社会全体に大きな変化が生じている。しかしながら一方で、急速に進むグローバル化の波が中国国内の宗教状況に影響を与えることを制限するため、習近平政権下では、宗教に対してより一層厳格な国家統制と管理を実行している。この点において特にキリスト教に対する政府の警戒感強く、2014年以降の浙江省および河南省を中心とした十字架強制撤去や北京や上海での都市教会の強制閉鎖などが進行している。

(2) **本研究における問い**：上記の状況に鑑み、本研究では「国や民族といった領域に縛られない宗教の越境性を制限し、宗教を国家という枠組みの中に固定し管理する中国政府の宗教政策下にある宗教に対し、経済活動の拡大とともに進展する宗教をめぐる環境の国際化、グローバル化がいかなる影響を及ぼすか」という問いに基づき、現代中国における宗教をめぐるグローバル化と国家による統制がせめぎあう状況について調査・考察を行った。

3. 研究の方法

(1) **本研究における研究の方法**：中国の宗教政策は、國務院や国家宗教事務局が施行した宗教関連法および共産党内で配布される内部文書等に基づくが、その実行内容は各地方の環境と地方政府の判断によって大きく異なる。そのような宗教政策の実際の実施状況とその結果生じている状況は、現地に密着したフィールド調査でなければ見えてこない。そのため本研究は、必要なデータ収集の手段として各回2週間の現地でのフィールドワークを複数回実施した。本研究では、フィールドワークの中で参与観察および関係者への聞き取り調査を行うことでデータや情報を収集すると共に、それらを中国宗教研究や歴史研究および統計などの資料に基づき広い視点から分析を行うことを主たる方法とした。

(2) **本研究における調査対象**：調査対象は、当初の予定では上海市浦東新区における中国プロテスタント教会と、それら教会に関わる外国人信者および留学などの海外経験をもつ中国人信者を主な対象とする予定であった。しかしながら、習近平政権下でのキリスト教会に対する管理がさらに厳しくなる状況の中、中国キリスト教会および中国人信者の安全性を考慮し調査対象の変更を行った。

(3) **調査対象の変更**：変更後の調査対象は、主に政府による管理から比較的自由的な外国人キリスト教徒と彼らが活動を行う国際教会に絞った。そのため調査地は上海だけでなく北京にも広げ両都市の比較を行うこととした。本研究で言う「国際教会」とは、中国国内において中

長期的に滞在する外国人プロテスタント信者が集団で礼拝をはじめとした宗教活動を行う場所および組織である。中国国内で礼拝活動を行う外国人プロテスタントのグループは大小様々で、かつ教派や構成メンバーも多様であるが、本研究においては政府との関係性を分析するために、政府が公認する比較的大規模な国際教会を対象とした。これら政府公認の国際教会は主に北京、上海、南京といった大都市にそれぞれ1カ所から数カ所ある。最初に国際教会が公認されたのは経済発展に伴い急速に外国人居住者が増加した1996年の上海においてであり、その後20年間で徐々に増加してきた。これら国際教会は、中国国内の教会全体の規模から見れば極めて小さな部分に過ぎないが、トランスナショナルなネットワークという視点から見た場合、その機能・影響範囲は決して小さくはなく、また拡大しつつある。しかしながらこれら国際教会に対する調査研究はこれまで全く行われておらず本研究が最初である。

4. 研究成果

(1) 調査によって明らかになった点：2016年からの三年間にわたる調査と分析を通して、数々の興味深い状況を見出すことができた。その主なものとして以下の三点がある。

第一に、1996年に国際教会が初めて政府によって認可されて以降、国際教会の数や規模が拡大してきただけでなく、当初の集会あるいは礼拝グループといった形態から、教会としての組織化が急速に進んできたという状況である。中国の宗教法規においては外国人が中国国内において宗教組織を設立することを違法としているため、外国人が活動する教会は正式には「教会」と名乗ることができないが、実質的にはすでに教会としての組織性と機能性を備える状態にまで国際教会は発展している。

第二に、上海と北京における国際教会の状況の比較を通して、両都市における国際教会に対する宗教法規の実行の状況が異なり、それゆえに両都市における国際教会の形態やメンバー構成に大きな違いがみられるという点である。その背景には両都市の都市環境の違い、地方政府の宗教活動をめぐる国際化に対する認識の違い、宗教を管轄する部署の体制の違いなどがある。

第三に、特に北京の国際教会においては、外国人だけではなく海外から帰国した中国人キリスト教徒の増加という興味深い状況がみられる。この状況は宗教法規的には違法と合法の間の微妙な状況にあるという点と、また中国キリスト教会に影響を及ぼす「国際性、グローバル性」を担う主体が「中国化」しているという点において、政府が定める宗教における「国内と国外の境界線」に対する挑戦となっている。この点は調査対象を海外の華人教会や華人キリスト教徒コミュニティなどにも広げ、引き続き調査を進める必要がある。

(2) 国内外での研究成果の発表：以上の研究成果は、学会での報告4件、論文2件としてすでに発表されている。また現在投稿中の論文が1件ある。

国内：2017年度に日本文化人類学会第51回研究大会において学会報告を行った。2018年度には、日本現代中国学会東海部会第11回研究集会と日本現代中国学会第68回全国学術大会にて学会報告を行い、さらに『立命館国際地域研究』第47号と『ことばとそのひろがり(6) - 島津幸子教授追悼論集』にて論文2件が掲載された。

国外：本研究内容の国際性に鑑み、国際的な場において成果を発表する必要があると考え、2019年3月にアメリカのパデュー(Purdue)大学のCenter on Religion and Chinese Society主催の国際学会において“The Growth and Changes of International Christian Fellowships under the Religious Regulations in China(邦題：中国における宗教法規の下での国際教会の成長と変化)”というタイトルで発表を行い、海外の研究者からも強い関心と貴重なフィードバックを得ることができた。本発表の内容は同タイトルにて論文にまとめられ、現在、Center on Religion and Chinese Societyが発行するジャーナルである*Review of Religion and Chinese Society*に投稿中(2019年5月末現在査読結果待ち)である。

(3) 今後の研究につながる成果：今回パデュー大学での発表を通じて、学会に参加していた世界各国の中国キリスト教研究者、さらに多くの優れた中国宗教の研究者が所属するCenter on Religion and Chinese Societyとのつながりができ、今後の調査研究につながる経験ができた点は大きな収穫であった。日本では現代中国の宗教状況は、中国研究における他の研究領域と比べて極めてマイナーな研究領域であるとみなされている傾向があるが、中国やアメリカを中心に海外では、中国の国家としての特徴を明らかにする重要な要素として、なおかつ国際社会においてアメリカと並ぶ大国としてそのプレゼンスを高めつつある中国において今後市民社会や自由な思想空間が可能になるのか否かををはかる鍵としてますます注目される領域である。その状況を反映して、海外では現代中国キリスト教の研究者は年々増加し(それらの研究者の中には海外の大学で博士号をとった中国人研究者も多く含まれる)優れた研究が続々と発表されている。その中で日本での研究は極めて少なく、また他言語からのアクセスが難しい状況にある。この状況を改善すべく、今後はぜひ海外の研究者との連携や海外の学会や学術誌での発表を充実させ、日本国内における現代中国キリスト教研究の国際性を高めてゆきたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

村上志保、中国における国際教会の拡大—上海と北京の状況を中心に—、立命館国際地域研

究、査読有、第 47 号、2018、41-59

http://r-cube.ritsumei.ac.jp/repo/repository/rcube/10699/as_47_murakami.pdf#search='%E6%9D%91%E4%B8%8A%E5%BF%97%E4%BF%9D+%E7%AB%8B%E5%91%BD%E9%A4%A8%E5%A4%A7%E5%AD%A6'

村上志保、中国におけるキリスト教「中国化」 - 「中国化」をめぐる議論と教会の変化 - 、ことばとそのひろがり - 島津幸子教授追悼論集、第 6 巻、査読無、2018、627-651

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/kotoba06/2017idx.htm>

〔学会発表〕(計 4 件)

Shiho Murakami, The Growth and Changes of International Christian Fellowships under the Religious Regulations in China, “Christianity and the Rule of Law in Chinese Societies”, 2019

村上志保、習近平政権下における宗教政策とグローバル化への対応 - 北京国際教会の事例を中心に - 、日本現代中国学会第 68 回全国学術大会、2018

村上志保、中国におけるキリスト教『中国化』 - 『中国化』をめぐる議論と教会の変化 - 、日本現代中国学会東海部会第 11 回研究集会、2018

村上志保、中国における外国人プロテスタントの宗教活動の拡大 上海市感恩堂、鴻恩堂および北京市海淀堂のケースから、日本文化人類学会第 51 回研究大会、2017

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

なし

(2)研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。